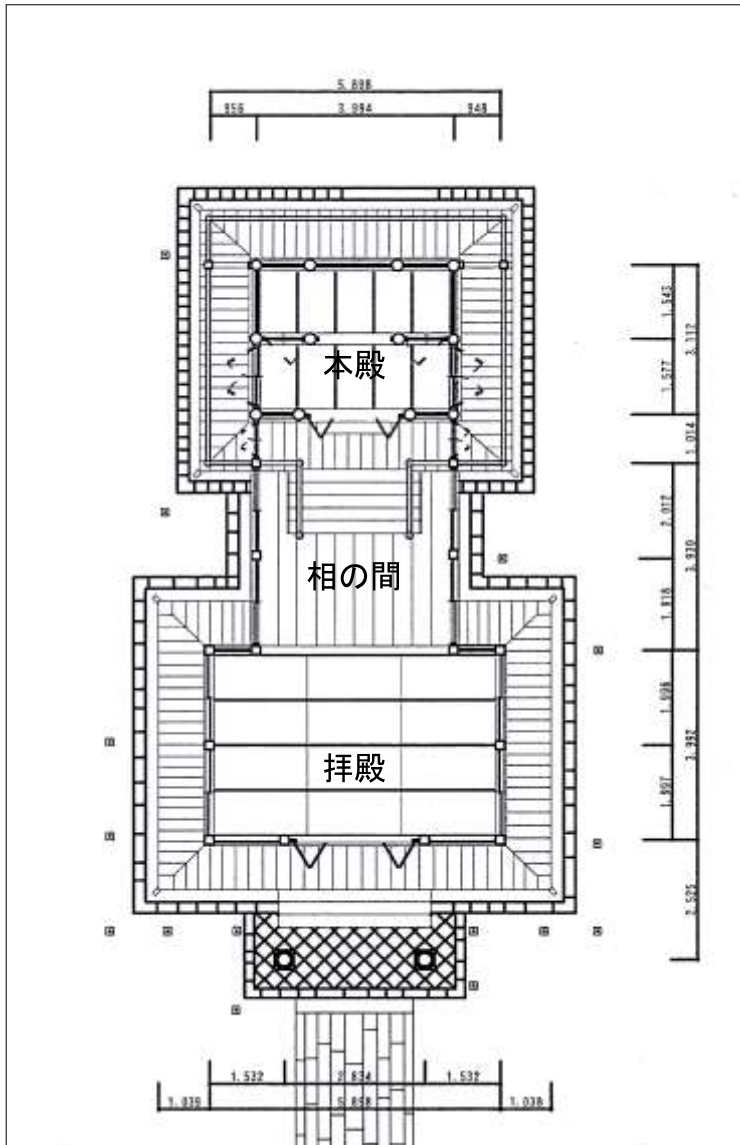


# 旧井伊神社本殿、相の間及び拝殿

井伊神社は、井伊家の始祖井伊共保の神霊を祀る霊廟として、天保13年(1842)共保750回忌にあたり、龍潭寺山門下の参道脇に井伊八幡宮を造営したのが始まりで、この社殿は、弘化2年(1845)に建立されました。井伊神社と称するようになるのは明治2年からと伝えています。その後、昭和13年に佐和山神社が、また昭和16年には祖霊社が、それぞれ井伊神社に合祀されて今日に至っています。



旧井伊神社社殿平面図

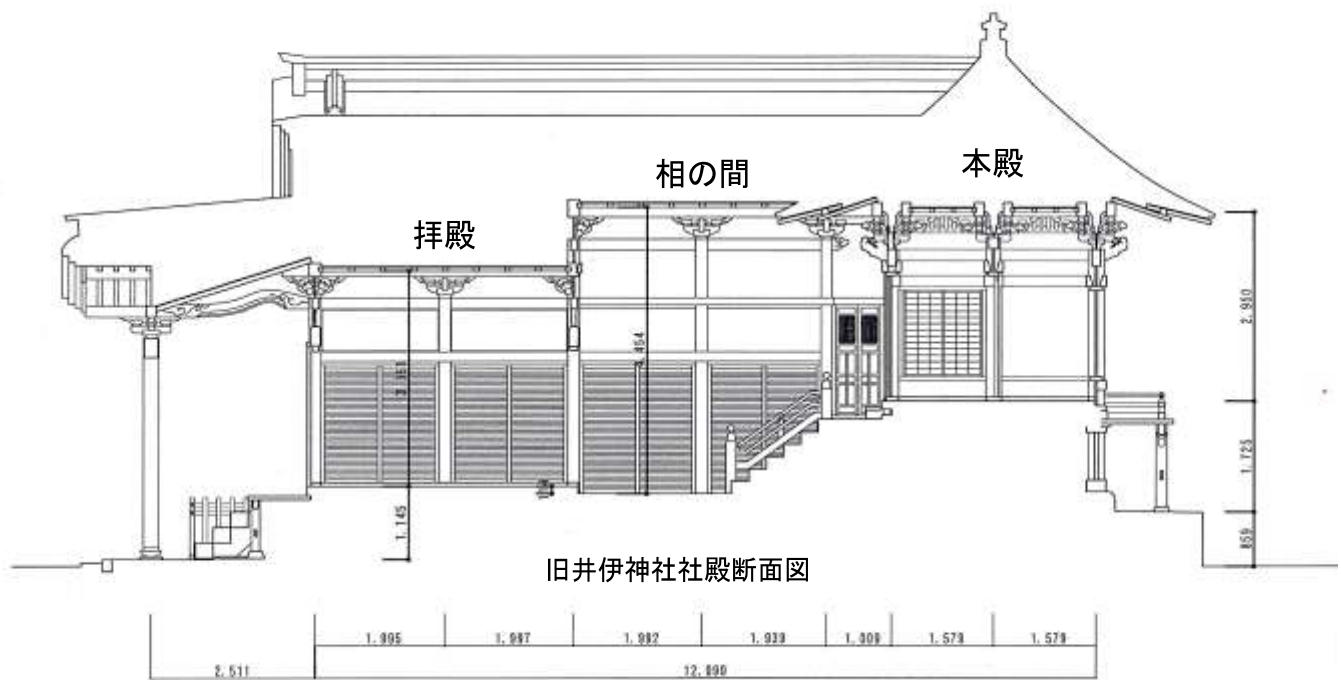
この社殿の形式は、入母屋造りの本殿と拝殿が、相の間で結ばれる権現造りです。本殿は梁間2間、桁行3間の入母屋造り銅板葺で、正面中央間を双折棧唐戸とし、両脇間は狭く、柱は円柱です。拝殿は、梁間2間、桁行3間の入母屋造り銅板葺で、千鳥破風を付け、柱は面取の角柱としています。正面中央間を双折棧唐戸、両脇間を部戸、両面に舞良戸を立てています。向拝は1間で、唐破風造り銅板葺です。相の間は、正面1間、側面2間の両下造りで銅板葺。柱は面取角柱で、側面に舞良戸を立てています。

軸部や垂木は朱漆、建具には黒漆を塗り、格天井の格間に草花を描いています。また、肘木・斗類による組物や虹梁、臺股などには華やかな彩色を施し、木鼻や長押上部壁には彫刻を施しています。

この社殿は、建立された時期は比較的新しいのですが、優れた意匠や彩色が随所に施

されるなど、江戸時代後期の高い技術の粋を集めて建立されており、大名井伊家の祖霊崇拝の実態を知る上でも貴重な建造物と言えます。

平成25年2月に新社殿が建立されて祖霊が移され、旧社殿となったこの社殿は、文化財として彦根市に寄付されました。



旧井伊神社拝殿



旧井伊神社の相の間から本殿を望む



旧井伊神社社殿の外観



旧井伊神社本殿に配された組物・彫刻とその彩色